



題字は達増知事

令和5年5月号

発行所

一般社団法人 岩手県畜産協会

〒020-0605 滝沢市砂辺389番7

☎ 019-694-1300(代)

FAX 019-694-1305

URL: http://iwate.lin.gr.jp

E-Mail: info@iwate.lin.gr.jp

印刷 小松総合印刷



畜産技術の発展、さらなる飛躍を目指して

岩手県農業研究センター畜産研究所

所長 千葉 伸

今年春の訪れが早く、この原稿が掲載される頃には、目に鮮やかな新緑の牧野に日本短角牛が放たれていることでしょうか。岩手県農業研究センター畜産研究所が管轄する外山牧野の起源は内務省の牧場開設許可を得た明治9年まで遡ります。この年は、第2次府県統合により磐井県から胆沢郡・江刺郡・磐井郡を、青森県から二戸郡を岩手県に編入して現在の県域が完成した年でもあります。本県がその名を盛岡県から岩手県に改称したのが明治5年1月8日(1872年2月16日)であることから、県は令和4年度から8年度までの5年間を「県政150周年記念期間」と位置付け、県勢発展の歴史を振り返り様々な記念事業を展開しています。

当所の前身は遡ること明治31年(1898年)に設置された種馬厩とされ、さらにその施設であった県営外山牧場が内務省の牧場開設許可を受けた明治9年(1876年)まで遡れば146年が経過しています。明治から太平洋戦争直後の昭和22年までは馬の供給と改良が、その後は牛・豚・鶏を対象に、種鶏場、農業試験場畜産部、模範牧場として、種畜の供給と畜産技術の向上・普及が主な役目でありました。

翻って畜産研究所は、試験研究機関としての位置づけとなった岩手県畜産試験場が設置された昭和37年(1962年)から数えれば還暦を過ぎ、今年

は61年目を迎えます。昭和、平成、令和と3つの年号を跨り、延べ3,000人以上の研究員と技能員等が、その時代の課題に対し精力的に取り組み、各現場で培った経験や技術の蓄積は大きな財産となっています。設置当初の資料を紐解くと、急速に進む規模拡大と技術革新に対応するため、家畜の改良増殖をはじめ、家畜飼養管理技術・飼料作物生産技術に関する諸研究を推進し、本県の畜産の近代化に資することが目的と謳っています。

当時は為替レートが1ドル360円であり、地域自給飼料を用いた低コストな飼養管理技術の開発が急務であるとも記されています。その後、牛肉自由化、ガットウルクアイラウンド農業交渉からTPPなどの貿易摩擦、BSEに端を発した食の安全・安心問題、東日本大震災や放射性物質問題など、常に逆風に見舞われました。また、近年は新型コロナウイルス感染症や地政学的リスクに端を発した飼肥料や燃油の高騰、国境を越えた人及び家畜の伝染病の流行などの脅威にさらされるなど、畜産を取り巻く情勢や課題の本質はなんら変わっておりません。

このような状況下で令和5年度は、県民計画(2019~2028年)の実現に向けた第2期アクションプランを開始する年であり、収益力の高い「食料
(次頁へ続く)

畜産春秋

もくじ CONTENTS

畜産春秋.....	1	畜産の研究(142).....	8
令和4年度臨時総会の開催.....	2	家畜の保健衛生(147).....	9
令和4年度岩手県獣医畜産業績発表会(岩手県知事賞畜産部門).....	3	乳用牛群検定情報(5).....	10
令和5年度農林水産部畜産課業務方針(その1).....	5	畜産技術情報(96).....	11
2023地方競馬ミルクウィーク開催!!.....	7	第67回岩手県畜産共進会の開催について.....	12
春の風物詩「農用1歳馬共進会・農用馬匹市場」、軽米で開催.....	7	子牛市場及び家畜市場成績.....	12

【「岩手の畜産」は、バックナンバーも含め協会のホームページでご覧いただけます。】

供給基地」の形成につながる技術開発に努めることを当所の業務方針の第一に掲げました。そして、新規課題6題を含む27課題に取り組むこととしています。また、今年は次の10年に向けた農業研究センター試験研究推進計画を見直す年であり、これからは畜産に携わる者の“やりがい”や

幸福度を高めるような技術開発にも視点を向け、本県の強みを生かした研究を進めてまいります。

また、大谷翔平選手や小林陵侖選手と同じ世代の若手職員が、昨年は1名、今年は3名配置されました。将来の岩手の畜産を支えるために、新しい発想で試験課題に取り組んで活躍してくれるでしょう。

令和4年度臨時総会の開催

令和5年3月13日に一般社団法人岩手県畜産協会の令和4年度臨時総会が開催され、第5回理事会において決定された令和5年度事業計画書及び収支予算書等が報告されました。

小野寺会長挨拶要旨

世界保健機関が、新型コロナをパンデミックと認定(2020年3月12日)してから、間もなく丸3年が経過する。この間、国内でも8度にわたり感染拡大の波が到来し、特に、第8波においては、亡くなった人が過去最多を記録した。

このような中で、国は新型コロナの感染症法上の位置づけについて、5月には季節性インフルエンザなどと同じ「5類」に移行することを決定したが、引き続き、感染防止対策には万全を期していただきたい。

さて、畜産を取り巻く情勢については、令和4年以降、ウクライナ情勢に伴う穀物価格の上昇等によって配合飼料価格が上昇し、畜産経営を圧迫しており、先行きに不透明感を増す状況となっていることから、特に、酪農家において例年以上に離農が進んでいる。

これに対し、国では、2022年度農林水産省第2次補正予算総額の約1割(773億円)を「畜産・酪農の生産基盤の強化」に充てられ、その中心は畜産クラスター事業や和牛増頭に係る事業であり、いずれも当協会が担っている。

改めて、本県の畜産振興における当協会の位置づけを認識するとともに、しっかりとその役割を果たしていかなければと、その重責を感じている。

会員・準会員の皆様には、これまで以上のご支援・ご協力を賜るようお願いする。

一方で、昨年2月に本県で初めて発生した高病原性鳥インフルエンザや、主に野生イノシシからの感染が懸念される豚熱など、家畜衛生上のリスクが増大している。

これらのリスクに関しても、関係機関・団体の



皆様と認識を共有し、連携を密にして、適切に対処して参りたい。

最後に、当協会において、これまで東北生乳販連からの業務委託契約に基づいて実施してきた生乳検査業務について、令和4年11月に東北生乳販連から正式に業務委託契約解除の通知があり、令和4年度末をもって検査業務を終了することをご報告申し上げるとともに、関係機関、団体等の皆様方には、これまでのご協力等に感謝する。

令和5年度事業計画書(概要)

基本方針

国内屈指の地位を誇る本県の畜産は、県農業産出額の約6割を占めるとともに、裾野の広い関連産業を抱え、地域経済の活性化に大きく寄与している。

一方、家畜飼養者の高齢化等により、畜産経営戸数の減少等が続いており、一層の生産基盤の強化が喫緊の課題となっている。

このため、本県においては、国の総合的なTPP等関連政策大綱に基づく畜産クラスター事業をはじめとする各種事業を積極的に活用した生産基盤強化の取組が進められ、TPP11発効前より肉用牛及び乳用牛の飼養頭数は増加し、小規模から中規模へ、中規模から大規模へと生産構造の転換が進んでいる。

当協会では、平成28年度から令和4年度までの間、畜産クラスター機械導入事業の窓口団体として、34の畜産クラスター協議会を対象に、畜産農家の機械導入における費用負担を軽減しつつ、経営の近代化及び収益性向上を図ってきた。また、令和2年度から始まった優良雌牛の増頭による肉用牛生産基盤の拡大を図るための生産基盤拡大加

速化事業や既存の肉用牛経営安定対策補完事業の実施により、2年度及び3年度の2か年で合計1,427頭(実363戸)の肉用牛の増頭が図られた。

このように、畜産経営の体質強化を推進している中で、令和4年以降、ロシアによるウクライナ侵攻、行き過ぎた円安などにより、原油・石油製品価格や肥料、穀物の相場が騰勢を強め、輸入依存の危うさが浮き彫りとなっている。特に、酪農家には、飼料高騰や子牛価格の低迷、生乳需給の緩和基調など、複数の危機が同時に押し寄せている。

これに対し、農林水産省は、2022年度第2次補正予算総額の約1割に当たる773億円を「畜産・酪農の生産基盤の強化」に充てた。その中心は畜産クラスター事業や和牛増頭に係る事業であり、いずれも当協会が担うものである。

こうしたことから、令和5年度については、当協会の各種事業において、意欲ある生産者の参加を取りこぼすことのないよう、関係機関・団体との連携のもと、次の重点事項を柱に掲げ、当協会の総力を挙げて各種事業を推進していくものとする。

重点事項

- 1 将来を担う経営体を対象とした経営診断・経営技術指導の実施
- 2 地域畜産をけん引する収益性の高い経営体の育成推進
- 3 肉用牛肥育経営安定対策の的確な実施
- 4 自衛防疫意識の啓発と地域ぐるみのワクチン接種推進
- 5 家畜人工授精用凍結精液等の安定供給及び適正利用の推進
- 6 登録制度を活用した家畜の遺伝的能力の向上

7 第16回全日本ホルスタイン共進会出品対策の推進

I 実施事業

- (1) 継続事業1 (98,564千円)
畜産振興を目的として、経営の改善指導・生産技術の向上指導、経営体の育成啓発、家畜改良の推進指導、家畜衛生の向上指導及び畜産物の安全確保指導、調査並びに情報収集及び提供、家畜生産・家畜改良意欲の増進啓発等に係る事業を実施する。
- (2) 継続事業2 (563,022千円)
肉用牛肥育経営の安定を図るため、月ごとに肥育牛1頭当たりの標準的販売価格が標準的生産費を下回った場合、差額の9割を補填金として交付する。
- (3) 継続事業3 (217,360千円)
家畜生産農場における家畜伝染病等の清浄化及びまん延防止のため、同居牛のとう汰や組織的な予防接種等を推進する。

II その他事業

- (1) 家畜人工授精用精液流通調整事業 (52,506千円)
本県の肉用牛及び乳用牛の改良増殖を推進するため、家畜人工授精用凍結精液及び受精卵等の供給を円滑かつ安定的に行う。
- (2) 家畜登録事業 (42,248千円)
本県で飼養される乳用牛及び豚の改良を促進するため、家畜登録事業の活用を推進する。
- (3) その他事業 (3,904千円)
関係機関・団体が行う研修会等への職員派遣を通じて、最新の技術・知識の修得と業務遂行能力の向上を図る。

令和4年度岩手県獣医畜産業績発表会

岩手県知事賞受賞(畜産部門)

未利用資源を活用した地域ぐるみの肉用牛生産の取組

二戸農業改良普及センター* 主査農業普及員 峠 舘 大 介
(*現: 中部農業改良普及センター 遠野普及サブセンター)

1 取組の背景

二戸地域における肉用牛生産は、繁殖経営が主体であり、肥育経営は少ない。肥育経営の飼養状況は、戸数・頭数ともに平成30年ごろから横ばいで推移しているが、生産者の高齢化、飼料及び資材価格の高騰により経営は厳しい状況となっている。また、当地域の牛肉は、いわて短角牛が有名であるが、黒毛和牛については、

購入できる店や食べられる店が少なく、認知度が低い状況にある。

肉用牛生産において枝肉成績など肥育農家の役割が非常に重要であること、また、地域内における黒毛和牛の認知度向上による消費拡大を図ることで、一層の産地活性化に寄与することが考えられる。

このことから、肥育農家における、効率的かつ効果的な肥育管理方法や、二戸地域の特色を活

かした肉用牛生産の仕組みを構築するため、地域における未利用資源を活用した生産方式の確立及び流通対策に向け、地域ぐるみで取組を支援した。

2 活動内容

(1) 地域の未利用資源の活用検討

二戸地域には、大手酒造会社があり、そこから残渣として排出される「酒粕」を飼料として活用できないか検討した。酒粕は嗜好性も高く、飼料摂取量の向上により肥育牛の増体が期待できることから肥育農家の課題解決のため取組を実践した。

(2) 酒粕肥育実証の実施

酒粕の効果を実証するため、二戸市内の一貫農家で給与試験を実施した。はじめはリスクを考慮し経産牛での実証とし、嗜好性を確認した後に未経産牛においても給与を開始した。給与期間及び方法について、他事例を参考に、経産肥育では6か月間、未経産肥育では出荷前4か月間の給与とし、また、給与量は1日当たり500gで配合飼料に混合し給与した。現在、一貫農家の他、同市の繁殖農家及び軽米町の肥育農家においても給与実証を実施している。

(3) 酒粕肥育牛の流通対策

地域における黒毛和牛の認知度が低いことから、地域内における販路確保に取組んだ。二戸市内にある食肉業者と連携し、比較的安価な経産牛について、試験的に取り扱うよう調整し、1頭/月分の販売会を開催した。

3 活動成果

(1) 酒粕肥育実証

給与状況について、経産牛、未経産牛ともに嗜好性は良好、残滓も減少し、飼料の摂取量が増加した。

酒粕肥育牛の枝肉成績について、経産牛では県内経産牛と比較し枝肉重量が増加となっ

たほか、脂肪色や肉色が改善される可能性が示唆された。未経産牛においては、酒粕未給与牛と枝肉成績が同等であったことから、効果については継続して確認する必要がある。また、近年注目されている脂肪酸組成については改善される可能性が示唆された。



写真1 酒粕と経産牛

(2) 酒粕肥育牛の流通対策

酒粕肥育牛の流通対策として、食肉業者において販売会を実施した。令和4年6月に初開催し、令和4年度は計8回の開催となった。開催周知は地元広告のほかラジオを活用し、約80名の来客があった。来客された方々からは好評をいただき、リピーターも付き始めている。

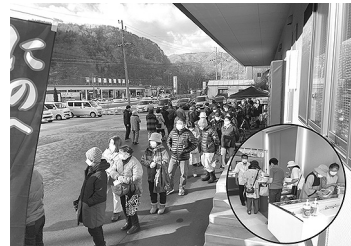


写真2 販売会にて多くの来客で賑わう



写真3 二戸産牛肉(黒毛と短角)を楽しむ

また、酒粕肥育牛の一層の定着のため、販売会の来客者より名称募集を実施した。名称は、二戸地域で南部美人の酒粕を給与した黒毛和牛という意味で「にのへ南部黒牛」に決定した。

令和5年2月には、更なる認知度向上のため、地元の企業と連携しイベントを開催した。イベントでは二戸地域産の牛肉を使用した特別メニューの提供や生産者、企業との連携をアピールした。初めての試みであり改善点はあ

表1 酒粕肥育牛(経産牛、14頭、3戸、R4.4~R5.3)の枝肉成績

給与期間 (か月)	BMSNo. (-)	枝肉重量 (kg)	0-3芯面積 (cm)	バラ厚 (cm)	皮下脂肪 (cm)	歩留基準値 (-)	脂肪色 (BFSNo.)	肉色 (BCSNo.)
酒粕肥育牛	3.8	5.1	348	45	5.6	2.3	72.6	4.0
県内経産牛*		3.3	316	39	5.0	2.1	71.9	4.3

* 県内経産牛は、JA全農いわてより(n=1,980頭、R4.1~12平均値)

表2 酒粕肥育牛(未経産牛、9頭、1戸、R4.4~R5.3)の枝肉成績

給与期間 (か月)	BMSNo. (-)	枝肉重量 (kg)	0-3芯面積 (cm)	バラ厚 (cm)	皮下脂肪 (cm)	歩留基準値 (-)	ルン酸 ^{※2} (%)	MUFA ^{※2} (%)
酒粕肥育牛	3.3	9.0	441	64	7.9	3.1	74.7	58.7
酒粕肥育以外 ^{※1}		8.3	418	61	7.6	3.1	74.4	52.5

*1 二戸市の一貫農家における酒粕肥育牛以外の成績(n=14頭、R4.4~R5.3)

*2 ルン酸及びMUFAは、分析を実施した頭数分のみ記載(酒粕肥育牛4頭、酒粕肥育牛以外3頭)

ご宿泊・ご宴会にご利用下さい。

乳製品の自宅宅配承っております。

風車が回る高原の焼肉レストラン

くずまき交流館プラトール

TEL. 0195-66-0555 FAX. 0195-66-0511

TEL. 0195-66-0030 FAX. 0195-66-0031

レストラン 袖山高原

TEL/FAX. 0195-68-2010

くずまき高原牧場

一般社団法人 葛巻町畜産開発公社 〒028-5402 岩手県岩手郡葛巻町葛巻40-57-125

TEL. 0195-66-0211 FAX. 0195-66-0755

http://www.kuzumaki.jp

るものの、参加者からは次年度以降も開催してほしいとの要望もあり、認知度向上に一定の成果が挙げられた。

4 今後の方針

酒粕肥育については、今後も実証を継続し、肥育管理法の確立とコスト計算を実施し管内への波及を、また、流通対策の取組については、頭数の確保や品質の安定化を図り、地元への更なる定着化を図る。

本取組により、肥育支援と流通対策の素地が

できた。生産から消費まで一貫した取組により、地域の特色ある肉用牛生産が可能となり、産地の活性化が図られるよう、今後も生産者、関係機関・団体及び

地域企業と地域ぐるみでの連携を強化し支援する。



写真4 地域ぐるみで産地の活性化

令和5年度 農林水産部畜産課業務方針 その1

II 令和5年度の業務運営方針

1 本年度の業務における主要課題

対策事業の凡例 : ●県単新規 ○県単継続 ●国庫新規 △国庫継続 ◇機構事業

Table with 4 columns: 項目(何を), 達成レベル・目標(いつまでに、どういう状態にするか), 達成手段・方法(重要なプロセス・チェック方法など), 担当. It details business strategies for feed price support, feed cost reduction, and production promotion.

項目 (何を)	達成レベル・目標 (いつまでに、どういう状態にするか)	達成手段・方法 (重要なプロセス・チェック方法など)	担当
	<p>○県有種雄牛の凍結精液の供給販売 R4：4,453本 ⇒ R5：8,000本</p> <p>○黒毛和種基幹種雄牛の選抜頭数（累計） R4：72頭 ⇒ R5：73頭</p> <p>○ゲノム解析による県有種雄牛候補選成頭数（累計） R4：5頭 ⇒ R5：7頭</p> <p>○日本短角種の生産基盤の維持 R4：2,447頭 ⇒ R5：2,450頭 ※県飼養頭羽数調査</p>	<p>【岩手県酪農・肉用牛近代化計画に基づく規模拡大・生産性向上への支援】</p> <p>① 規模拡大志向農家に対する生産基盤の整備の支援 ・「肉サポチーム」による経営計画策定の支援 ・牛舎整備：2戸（繁殖牛舎2棟、育成牛舎1棟、分娩牛舎1棟、分娩・哺育牛舎1棟、堆肥舎1棟） （畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業（△））</p> <p>② 畜産公共事業の推進 ・R7年度以降の新規地区掘り起しに向けた現地研修会の開催（7月・2か所）</p> <p>③ 優良繁殖雌牛の導入の支援 ・700頭導入見込み（4～3月） 〔肉用牛経営安定対策補完事業（◇） 生産基盤拡大加速化事業（肉用牛）（△）〕</p> <p>④ キャトルセンターの体質強化支援 ・「肉サポチーム」による組織運営及び飼養管理技術向上の支援（4～3月） （ゼロ予算）</p> <p>⑤ 生産性（子牛の初期発育）の向上 ・指導者の指導力向上研修会開催（7月） ・生産者の生産性向上研修会開催（12月） ・和牛子牛市場相談窓口や家畜市場通信による生産性向上支援（4～3月） ・「肉サポチーム」による子牛の初期発育向上など生産性向上支援（4～3月） （ゼロ予算）</p> <p>⑥ いわて肉用牛躍進運動の推進（一部再掲） ・担当者会議（1回） ・指導者の指導力向上研修会開催（7月） ・生産者の生産性向上研修会開催（12月） ・和牛子牛市場相談窓口や家畜市場通信による生産性向上支援（4～3月） ・「肉サポチーム」による子牛の初期発育向上など生産性向上支援（4～3月） （いわて肉用牛躍進運動推進協議会構成員の所管事業）</p> <p>【黒毛和種優良種雄牛の造成と利用推進】</p> <p>① 基幹種雄牛の選抜1頭、直接検定8頭、現場後代検定3頭（1頭当たり産子20頭で実施）</p> <p>② ゲノム解析技術による全国トップレベルの種雄牛の早期造成〔若雌牛（500頭）及び種雄牛候補（40頭）のゲノム評価〕</p> <p>③ 種山畜産研究所の専門職員（たねやま営業部）による県有種雄牛のPR強化 ・凍結精液の配送業務への随行及び凍結精液の販売促進活動（毎月） ・和牛専門誌での広告掲載による全国への情報の発信（2誌、6月、11月） ・SNSにPR動画を投稿（毎月） ・和牛や交雑種子牛の市況や肥育成績を開取り調査し情報提供（毎月） ・生産者の研修会等における県有種雄牛のPR（随時） ・大規模農場を対象とした県有種雄牛の利用促進（四半期毎）</p> <p>④ 県有種雄牛産子限定の枝肉共励会の開催（9月）</p> <p>⑤ 新規基幹種雄牛の生産者表彰（知事賞） 〔いわて和牛改良増殖対策事業（○） いわて牛産地育成革新技術推進事業（○） いわて県有種雄牛利用推進事業（○）〕</p> <p>【日本短角種（いわて短角和牛）の地域内一貫生産の推進】</p> <p>① 優良種雄牛の造成と地域への貸付（令和5年度43頭貸付見込み）</p> <p>② 優良繁殖雌牛の導入の支援</p> <p>③ 放牧地の管理運営経費（肥料・土壌診断）の支援</p> <p>④ 種雄牛の効果的な利用等の検討（4～9月） 〔日本短角種集団育種推進事業（○） 肉用牛経営安定対策補完事業（◇） 生産基盤拡大加速化事業（肉用牛）（△）〕</p>	<p>畜政担当 振興担当</p> <p>畜政担当 振興担当</p> <p>振興担当</p> <p>畜政担当 振興担当</p> <p>振興担当</p> <p>振興担当</p> <p>振興担当</p> <p>振興担当</p>
<p>② 酪農</p>	<p>○経産牛1頭当たりの305日乳量 R3：9,842kg ⇒ R5：9,920kg ※R4実績は、R5.7に判明</p>	<p>【岩手県酪農・肉用牛近代化計画に基づく規模拡大・生産性向上への支援】</p> <p>① 規模拡大志向農家に対する生産基盤の整備の支援 ・「酪サポチーム」による経営計画策定の支援 ・牛舎整備：周年預託施設 哺育舎1棟 堆肥舎1棟 ・飼料基盤整備：6か所44.79ha（うち、公共牧場1か所・周年預託施設2か所32.47ha） 〔農山漁村地域整備交付金（△） 農業競争力強化農地整備事業（△）〕</p>	<p>畜政担当 振興担当</p>



母豚2,000頭の一貫経営

・JGAP認証農場 ・良質豚ふん堆肥の供給
・徹底した衛生管理と優良系統豚による斉一性の高い高品質豚肉の生産・供給

「みなみよ〜とん株式会社」

岩手町大字川口36-242-3
TEL. 0195-62-9087 FAX. 0195-62-9373
※精肉のご用命は岩手畜流会（食肉専門店）へ

項目 (何を)	達成レベル・目標 (いつまでに、どういう状態にするか)	達成手段・方法 (重要なプロセス・チェック方法など)	担当
	○酪農ヘルパーの不足要員数の解消 R4：専任ヘルパー不足人数17人 ⇒ R5末：不足0人	② 畜産公共事業の推進 ・ R7年度以降の新規地区掘り起しに向けた現地研修会の開催 (7月・2か所) ③ 「酪サボチーム」による牛群検定分析データを活用した農家の 生産性向上の取組の支援(4～3月) (いわて酪農の郷総合対策事業(○)) ④ 外部支援組織の育成・強化 ・ 組織体制強化のモデル組織に対する、専門家派遣等の現地指導 (4回) ・ 「酪サボチーム」によるヘルパー利用組合等の体制強化に向け た支援 ・ 酪農ヘルパー等の組織体制強化に向けた意識醸成研修会の開催 (11月) 〔酪農経営支援総合対策事業(◇) いわて酪農の郷総合対策事業(○)〕	畜政担当 振興担当 振興担当
	○牛群検定加入戸数 (経産牛飼養規模30頭以上加入戸数/成畜 飼養規模30頭以上戸数) R3：180戸/304戸 ⇒ R5：180戸/304戸 (R3：牛検加入戸数372戸) ※R4実績は、R5.7に判明 ○体細胞数50万/ml未満の割合 R4：95.4% ⇒ R5：95.0%以上 ※R4年数値は、R4.4～R5.1	【産乳能力の向上と高品質乳生産の推進】 ① 「酪サボチーム」による牛群検定分析データを活用した農家の 生産性向上の取組の支援(4～3月)【再掲】 ② ミルキングシステム診断の支援(5～11月) ③ A T検定法の導入推進(4～3月) (いわて酪農の郷総合対策事業(○) 酪農経営支援総合対策事業(◇))	振興担当

2023地方競馬ミルクウィーク開催!!

令和5年3月11日(土)及び12日(日)の2日間、水沢競馬場を主会場に、地方競馬における生乳消費拡大推進施策として、競馬場来場者への牛乳・ヨーグルト等の配付及び冠レースでの副賞の提供が行われました。これは、新型コロナウイルスの影響や飼料高騰に伴う乳価の引き上げによる生乳消費の落ち込みが懸念されており、畜産振興の観点から牛乳・乳製品の消費拡大に繋げることを目的に、地方競馬が一体となった取組として社会貢献のPRに繋げるべく実施されたものです。来場者への牛乳・ヨーグルト等の配付については、東北6県の馬事畜産協議会事務局が11日(土)、12日(日)



に分かれて実施し、各県ご当地の乳製品・ヨーグルト(各県300個)が競馬場来場者にプレゼントされました。

また、冠レースへの副賞提供については「がんばれ!岩手県の酪農応援賞」として3月12日(日)の第1レースに開催され、優勝者(馬主、騎手、調教師、厩務員)に岩手県内の乳製品セットが提供されました。

当日を含め地方競馬の売上げの一部は、畜産農家の経営改善、後継者の育成、家畜の感染症予防等、畜産の振興にも活用されています。

春の風物詩「農用1歳馬共進会・農用馬匹市場」、軽米で開催

4月8日、軽米家畜市場で、九戸畜産農業協同組合主催の第72回農用1歳馬共進会と第74回農用馬匹市場・春市場が開催されました。

「農用1歳馬共進会」では、農家が手塩にかけて育てた7頭の出場馬の中から、盛岡市の大森竹

動物の健康は人の健康につながる

●動物用医薬品販売の全国ネットワークを駆使し、あらゆる動物の健康維持に貢献します。

動物用医薬品・畜産用資材・器材・医療機器・医薬品

MPアグロ株式会社

本社:北海道北広島市大曲工業団地6-2-13 盛岡支店:TEL 019(638)3291

見さん出品の「春香」(雌)が1等賞に輝きました。共進会終了後に開かれた「農用馬匹市場・春市場」では、日本輓系種やポニーなど計74頭が上場され、県内外から集まった購入人や関係者を前にして「手競り」が行われました。

販売最高額は、青森県北津軽郡の齊藤光彦さんが上場した日本輓系種「五月姫」(1歳雌、毛色・斑栗)が172万円(税抜)の高値で取引されました。



「春香」号

会場には、多数の入場者が訪れ、昔ながらの手競り風景を楽しんでいました。時折発する馬のいななきが、北国に本格的な春の到来を告げていました。



せり風景

畜産の研究 (142)

高温期を回避したオーチャードグラスの刈取管理法

近年の平均気温の上昇により、寒地型牧草の衰退や雑草の侵入、病害の発生が顕在化し、採草地の生産性が低下しています。県内では、一般的に、2番草の収穫は梅雨明け後の暑い時期になることが多く、寒地型牧草の衰退を助長しています。そこで、夏季の高温期を避ける収穫間隔で、本県基幹草種のオーチャードグラス採草地を管理し、その収量と持続性を評価しました。

【方法】

既存のオーチャードグラス採草地において、令和3年及び令和4年に、表1に示す4区分の刈取管理及び施肥を行いました。「慣行」は県内の一般的な刈取間隔であり、2番草を梅雨明け直後の最も暑い時期(7月下旬)に刈取りを行う年3回刈りです。「夏避3」は7月と8月を避け

表1 刈取及び施肥管理(上段 番草、下段 施肥量)

試験区	4月上旬	5月下旬	6月下旬	7月上旬	7月下旬	8月下旬	9月中下旬	施肥合計
慣行		1番草 5-2.5-5			2番草 5-2.5-5		3番草	20-10-20
夏避3		1番草 3-1.5-3	2番草 7-3.5-7				3番草 (3-1.5-3) ^{*1}	20-10-20 (23-11.5-23) ^{*2}
夏避4		1番草 4-2-4		2番草 4-2-4		3番草 4-2-4	4番草 (3-1.5-3) ^{*1}	22-11-22 (25-12.5-25) ^{*2}
多回		1番草 3-1.5-3	2番草 3-1.5-3		3番草 3-1.5-3	4番草 3-1.5-3	5番草 (3-1.5-3) ^{*1}	22-11-22 (25-12.5-25) ^{*2}

注 ※1の()内は最終刈取後の施肥量、同※2は最終刈取後の施肥含みの合計施肥量を示し、翌年度の牧草収量に影響する。

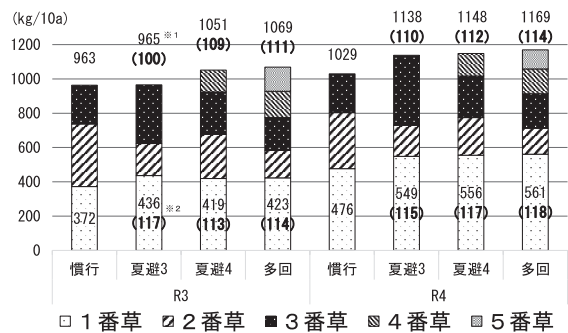


図1 番草毎の牧草乾物収量(オーチャードグラス)(kg/10a) ※1は年間乾物収量、※2は1番草乾物収量、()は年度毎の慣行区比(%)

て年3回、「夏避4」は7月中旬から8月中旬を避けて年4回刈り、「多回」は月1回で年5回刈取りを行いました。なお、「夏避3」「夏避4」「多回」には、最終番草の刈取後に施肥を行いました。早春及び秋の冠部被度、牧草乾物収量を調査し、グラスサイレージ1kgあたりの費用を算出しました。

【結果】

高温期を避け最終刈取後に施肥を行った「夏避4」及び「多回」は、「慣行」と比べて1番草乾物収量及び年間乾物収量が多く得られました(図1)。

「夏避4」及び「多回」は、最終刈取後のオーチャードグラスの冠部被度は維持され、持続性にも問題ありませんでした(図2)。

農畜産物の「安心・安全」を未来につなぐ

小田島商事株式会社

フレミックス工場 0198-26-4726 代 家畜衛生食品検査センター 0198-26-5375 代 横手(営)、青森(営)、古川(営)、山形(営)、酒田(出)、福島(営)、旭川(営)、札幌(営)、帯広(営)、釧路(出)

<動物用医薬品・ワクチン・プレミックス・器具機材>

本社 〒025-0311花巻市卸町66番地 TEL 0198-26-4151代
花巻(営) 0198-26-4700代 八戸(営) 0178-34-2284代
大船渡(営) 0192-26-4740代

「夏避4」及び「多回」のグラスサイレージ1kgあたりの費用は「慣行」と同等となりました(表2)。

今年は暑い夏となることが既に長期予報で発表されています。採草地を良好に維持するためにも是非参考としてください。

表2 グラスサイレージ(GS)1kgあたりの費用

試験区	諸材料費計(円)*	GS収量(30%補正)(kg/10a)	GS1kgあたりの費用(円)
慣行	32,307	3,430	9.4
夏避3	34,994	3,793	9.2
夏避4	38,176	3,827	10.0
多回	38,794	3,897	10.0

* 燃料費+梱包資材費+肥料費 (R3,R4実勢価格)

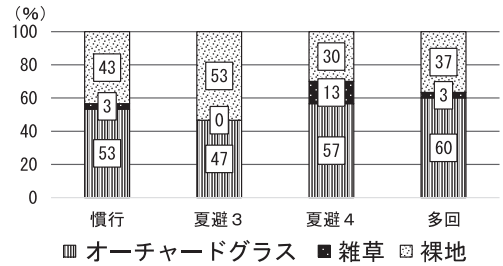


図2 最終刈取後(10月12日)の冠部被度 (%)

家畜の保健衛生 (147)

豚熱ワクチン接種農場の免疫付与状況について

国内で26年ぶりに豚熱が発生してから4年半が経過しました。本病の原因である豚熱ウイルス(CSFV)は、野生いのししの中で感染・拡散を続け、多くの養豚場に侵入した結果、本病が全国で86事例発生しています。本県では、2022年4月に感染いのししが確認されて以降、現在までに感染いのししの検出が6市3町96頭に増加しており、養豚場で本病が発生するリスクが高まっています。2021年7月から本県養豚場においてもワクチン接種が開始され、CSFVに対する免疫(抗体)がどの程度付与されているか定期的な抗体検査(ELISA、中和試験)により調査してきました。本稿では、本調査により得られた県内飼養豚の免疫付与状況と発生予防対策上の課題について、その概要を御紹介します。

1 第1回免疫付与状況確認検査結果(2021年8~11月)

県内全ての一貫経営80農場の母豚2,341頭を検査しました。対象豚はCSFVに対する免疫がないため、接種豚の免疫付与率は98.2%と良好でした。国は免疫付与率80%を目標としており、80%に満たない場合は、追加接種を行うことになっています。

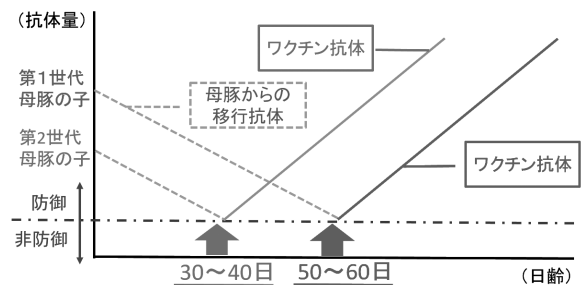
2 第2回免疫付与状況確認検査結果(2022年3~7月)

一貫経営25農場の母豚746頭及び67農場の肥育豚1,976頭を検査しました。母豚の免疫付与率は100%であり、前回の検査時より免疫が増強されていました。このような初回接種母豚(第1世代)から産まれた子豚は、初乳を介してCSFV感染を防御する移行抗体を多く保有することになります。

移行抗体を多く保有する子豚にワクチンを接種すると、免疫がうまく付与されない場合があることから、国はワクチンの接種時期を50~60日齢程度に遅らせる方針を示しました。本県でも多くの子豚がこの日齢で接種されていましたが、肥育豚の免疫付与率は82.2%であり、母豚由来の移行抗体による負の影響が確認されました。67農場中24農場(35.8%)の免疫付与率は80%未満(13.3%~76.7%)であったことから、追加接種が行われました。

3 第3回免疫付与状況確認検査結果(2022年9月~2023年2月)

一貫経営25農場の母豚717頭及び肥育豚735頭を検査しました。母豚の免疫付与率は91.5%であり、母豚群においても移行抗体による負の影響が認められました。移行抗体の影響がない第1世代の母豚では98.0%とこれまでと同様に高い付与率でしたが、移行抗体保有下で子豚時に接種された母豚(第2世代)では90.9%と低下しました。第2世代母豚の産子は、第1世代のそれとは異なり移行抗体の消失時期が早い場合、子豚への接種適期が30~40日齢程度になることが分かりました。肥育豚(第1世代母豚の産子)の免疫付与率は81.8%であり、前回の検査と同様に低い結果でした。25農場中7農場(28.0%)の免疫付与率は80%未満(50.0%~76.7%)であったことから、追加接種が行われました。



〈豚熱ワクチン接種適期のイメージ図〉

- 共進会用 馬・乳牛 } 用頭絡手綱・馬衣・乳牛用新型牛衣・ ●牛馬手入用毛ブラシ
- 肉牛 } 肉牛用牛衣 根ブラシ・金くし
- 普通乗鞍・ウエスタン鞍・ポニー用鞍等乗馬具・鞍馬具一式・畜犬具
- 電気工事用革ケース・カバン・スック製袋カバン・リュックサックバンド・安全帯
- せんてい鉄ケース他造園工具ケース類 ●その他特別御注文のカバン等承っております

創業110年品質第一手造りの店

岩手県指定店 塩釜馬具店

盛岡市大沢川原2丁目2の32 TEL 019-622-5393 (労働福祉会館隣)

ワクチン接種により、農場内にCSFVが侵入しても、豚群への感染拡大によるCSFVの増殖は抑えられるため、その地域内でCSFが発生するリスクは低下します。現時点における県内飼養豚の平均免疫付与率は目標値である80%を達成していますが、農場においては80%未満の豚群も複数確認されています。また、第1世代の母豚が全て更新されるまで、母豚の世代により子豚の接種適期や移行抗体の消失時期が異なるため、子豚の免疫

は不安定な状況です。ワクチン接種開始以降の国内の発生状況を見ると、接種対象豚がいる離乳舎での発生が多いことから、ワクチン接種のみに頼らず、飼養衛生管理基準の遵守による侵入防止対策が重要です。前ページのワクチン接種適期のイメージ図を参考に、ワクチン接種による免疫付与率を可能な限り高めるとともに、野生いのししが保有するCSFVの侵入防止対策を徹底する必要があります。

乳用牛群検定情報(5)

一般社団法人家畜改良事業団

牛群検定気象情報カウダス

今回は牛群検定気象情報カウダスを紹介します。カウダスとは、乳用牛カウを天気予報でおなじみの気象庁アメダスとを合わせた造語です。広い岩手県には47か所もアメダスが設置されており、各検定農家から一番近いアメダス情報を検定成績表にカウダスとして表示しています(図1)。

なお、カウダスは全国各地の最新情報が当団HPに公開されています。「牛群検定カウダス」で検索してみてください。

1 岩手県内の気候の特徴

岩手県は全国一の広さを誇る県であり、奥羽山脈と北上山地の2本の山岳地帯が走っています。近海は親潮(寒流)、黒潮(暖流)に加え、日本海流の支流である津軽海流(暖流)が南下するため、3本の海流があります。これらのことから岩手県は極めて複雑な気候となっており、県平均の気候を示すことは難しいのですが、前述の各検定農家のカウダスから岩手県内の平均を計算し図2のように示しました。

岩手県内の検定農家の多い地域の気象情報が優

図1 検定成績表1枚目

検定成績表(牛群成績)

前回検定 年 月 日	今回検定 年 月 日	前回の 日数	受付日 月 日	発行日 月 日	検定から 日数	飼養形態:フリーストール 搾乳形態:ミルクパーラー BC管理:ボデーロブティヨンスコア
22 07 21	22 08 25	35	08 26	08 29	5	

検定日気象情報 平均気温: +22.7℃ 最高気温: +25.3℃ 最低気温: +20.8℃ 降水量: 0mm 平均THI: 70.7
 検定日前一週間 平均気温: 25.0℃ 最高気温: 34.6℃ 最低気温: 18.6℃ 降水量: 77mm 平均THI: 74.3

最高気温も30度を超えているが、最低気温は22度以下

2022年 牛群検定気象情報 —カウダス—

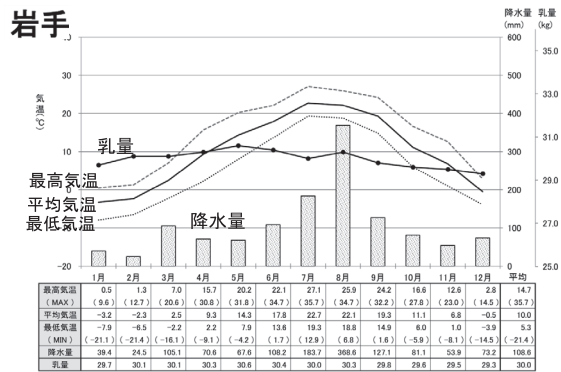


図2

(参考) 栃木

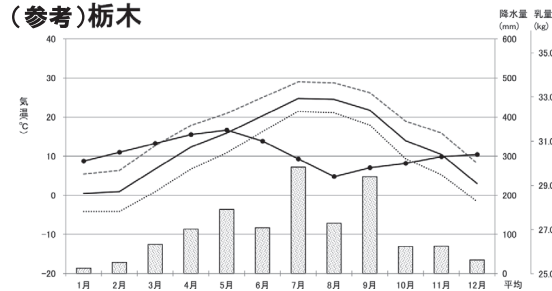


図3

先された酪農用の気象情報とも言えます。

2 乳量の季節変化

比較のため参考として、図3に栃木県のカウダスを示しました。一般に都府県では栃木県のように夏季の暑熱である8月に乳量を大きく落とします。しかし、岩手県では暑熱の影響は小さく、緩やかに5月頃に最高乳量、12月頃に最低乳量を示します。これは、北海道における季節変化と類似するもので、冬至、夏至といった日長時間という乳牛本来の自然現象に左右された酪農に向けた気候であると言えます。



家畜改良事業団では、牛凍結精液の他、全国的な評価が高まっている体外受精卵(IVF卵)、発情周期の同調鈍性発情・卵巣停止に効果を発揮するイージーブリード、凍結精液の保存容器(MVE社製)を取扱っております。ご利用についてのお問い合わせ・パンフレットのご請求は、盛岡種雄牛センターまでお願い致します。

一般社団法人 家畜改良事業団盛岡種雄牛センター

〒028-4134 岩手県盛岡市下田字柴沢301-5
TEL 019-683-2450 FAX 019-683-1334

3 暑熱による乳量減

乳牛の日本飼養標準では、最高気温24度を越えると乳量が減少するとされています。

しかし、夏季に24度を超えるのは、岩手県がやや涼しいものの栃木県と大差はありません。それでも夏季の生産量に大きな違いが出ています。日本飼養標準には暑熱についてもうひとつ重要なことが記載されています。最低気温が22度を下回れば乳量減少が緩和されるというものです。平易に記せば、夏季の日中にどんなに暑くとも、夜を涼しく過ごせば乳量に大きな影響はないこととなります。岩手県の気候はまさにこのことが具現化した事例であり、栃木県と異なるものです。

4 農家それぞれに...

さて、話を図1に戻します。検定成績の中央に昨年8月の検定成績が記載されていますので確認してみてください。検定成績表を農家毎に見れば、やはり夏季に乳量を落としてしまう事例は少なからずあります。その時に大切なことは、「夏季だから仕方がない」と諦めないことです。特に岩手県は、夜間に涼しくなり暑熱の影響の小さい県ですから、送風扇の夜間運転、飼料の夜間給与などは有効と思われます。送風扇のホコリや蜘蛛の巣を払うだけでも風力アップしますので、今この時期に対策を施しましょう。

畜産技術情報 (96)

1 飼料用とうもろこしの播種

飼料用とうもろこしの播種は、平均気温が10℃を超え、降霜の危険性が極めて低くなる時期が適期となります。過去10年間の気象データでは、5月に入ると県内全域で平均気温が10℃を超えますが、二戸地域では5月20日頃、盛岡や宮古地域では5月10日頃、一関地域でもゴールデンウィーク頃までは降霜の可能性(4℃以下)がありますので、留意してください(表1)。

栽植本数は、飼料用とうもろこしの最大収量を得るために大切な要素です。栽植本数を増やすと収量は増えますが、雌穂割合が低下し栄養価が減ってしまいます。畝間75cmの場合は、株間16cmで栽植本数約8,300本/10a、19cmで約7,000本/10aとなります。品種ごとに適正栽植本数が記載されているので、大きく逸脱しないよう、播種時に表2を参考にして畝間株間を設定してください。

出芽率、苗立ち率が収量に大きな影響を与えますので、播種床は丁寧に仕上げ、播種機を速度を控えめにしながら確実に種子を落としましょう。覆土が不完全な場合は、播種深を通常の3cmからやや深めに設定すると苗立ち率が向上します。

表1 過去10年間で5月の最低気温が4℃以下となった回数

地域	月日	5/1-10	5/11-20	5/21-31	最も遅い日
盛岡		14回	1回	0回	5/11 (3.4℃)
二戸		37回	14回	1回	5/25 (3.5℃)
一関		4回	0回	0回	5/8 (2.4℃)
宮古		12回	2回	0回	5/13 (3.1℃)

表2 畝間株間と栽植本数(十の位切り捨て)

畝間	株間				
	16cm	18cm	19cm	20cm	22cm
70cm	8,900本	7,900本	7,500本	7,100本	6,400本
75cm	8,300本	7,400本	7,000本	6,600本	6,000本

2 飼料用とうもろこしの土壌処理

播種床は、砕土率(2cm以下の土塊)が70%以上となるように作業します。これにより、苗立ち率の向上に加え、除草剤の効果が高くなります。また、砕土整地から播種、土壌処理の一連の作業を、できるだけ短期間で行うことによって、とうもろこしの初期生育は良好になります。



図1 除草剤(土壌処理)散布の様子

○草造地用に

草造地484号 14-28-14

○苦土の補給に

草造地211号 20-10-10-5

○カリ過剰対策に

草造地NP260号 12-6-0-9

草造地NP420号 24-12-0-7

豊かな大地を育む **B.B. 肥料株式会社**

〒025-0312 花巻市二枚橋第5地割146番地 TEL0198-26-3313 FAX0198-26-3316

お知らせ

第67回岩手県畜産共進会の開催について

岩手県畜産共進会は、本県における家畜改良増殖の促進と畜産農家相互の研鑽を図ることを目的として開催するものです。

今年度も新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を徹底した上で、開催することとしています。

今年度の開催日程は次のとおりで、総合開会式は令和5年8月31日(木)9時から開催され、

引き続き黒毛和種の部の審査が行われる予定となっています。

Table with 3 columns: 出品家畜, 開催月日, 会場. Rows include 黒毛和種, ホルスタイン種, 日本短角種, 馬, 肉牛.

主催：(一社)岩手県畜産協会
後援：岩手県、JA全農いわてほか

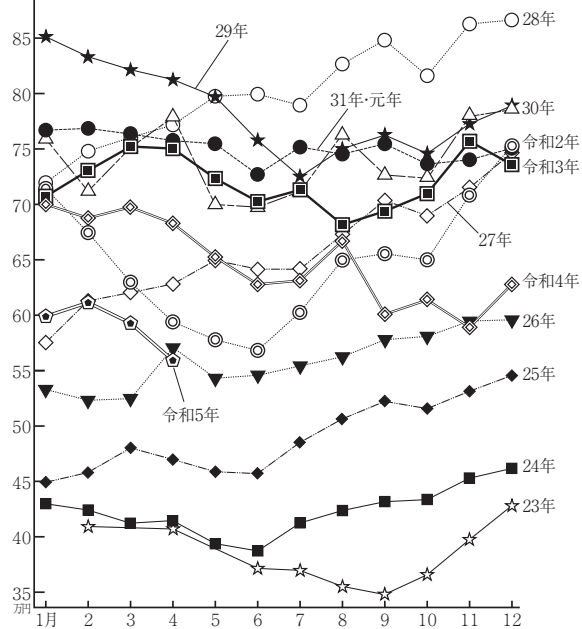
県内黒毛和種子牛市場成績

(全農岩手県本部)

Table showing market performance for black and white Wagyu steers from March to April, including head counts, average prices, and average weights for various districts.

※ 価格は円(税込み)、体重はkg

子牛価格の推移



県内家畜市場における指定肉用子牛取引実績

公益社団法人岩手県畜産物価格安定基金協会

Table showing the performance of designated meat steers in the prefectural livestock market for March and April, including head counts and average prices.

※ 指定肉用子牛とは、肉用子牛生産者補給金制度における、平均売買価格算定の対象となる牛(区分ごとに体重の範囲が定められている。)
※ 平均価格は消費税込み

Advertisement for 'Ganbaru!畜産!6' featuring a QR code, contact information for the Livestock Association, and a QR code for smartphone access.